

生成AIを企画・台本・ 字幕・分析に**安全に使う**方法

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。

AIを使う工程と、人が確かめる点を決める。

企画

疑問や切り口の候補を広げる

台本

構成や言い換えの下書きを作る

字幕

文字起こしと整形を補助する

分析

データを整理し、仮説を出す

公開する事実・表現・権利・個人情報、担当者が確認します。

もっともらしい文章にも、**誤り**は入り得る。

数値・人物・引用・出典は原資料に戻って確認します。

AIが示したリンクも、**実在と内容の一致**を確かめましょう。

確認できない内容は、**未確認**と分かる形で保留します。

参考 NIST AI 600-1 生成AIリスク管理プロファイル

doi.org/10.6028/NIST.AI.600-1

入力してよい情報を、チームで先に決める。

始めやすい材料

公開済みの商品説明や架空の練習素材

確認が必要な材料

顧客情報、未公開企画、契約情報、人物を含む素材

入力しないもの

パスワードや認証情報

氏名を消しても、他の情報と組み合わせて人を特定できる場合があります。

利用するサービスの条件を確認する。

確認項目

社内で利用を認めた契約・アカウントが
入力内容の保存や学習利用はどう扱われるか
共有範囲や削除方法は分かるか
生成物の利用条件を満たせるか

サービスや契約によって条件は異なります。実際の設定と最新の規約を確認してから使いましょう。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）

ディレクター

目的・ターゲット・
企画の方向性を
決める

構成

台本・構成案を
作成する

撮影

構成に基づき
撮影する

編集

カット・テロップ・
BGMなどを整え
仕上げる

内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

企画では、視聴者の疑問を具体化する。

依頼の例

公開済みの商品説明を材料に、初めて購入を検討する人が抱く疑問を挙げてください。根拠がない性能や実績は追加しないでください。

担当者の確認

実際の顧客の疑問と合うか

自社が具体的に答えられるか

一本で扱える範囲か

台本では、**事実**と**表現**を分けて渡す。

渡すもの

確認済みの事実と出典

視聴者と動画の目的

伝えたい結論と期待する行動

使わない表現や未確定事項

AIには複数の構成案を依頼し、商品条件や効果の表現を人が原資料と照合します。

字幕は、音声と画面を合わせて検品する。

確認する箇所

人名・会社名・専門用語

数字・単位・金額

否定や条件を表す言葉

話者の切り替わり

表示時間と改行

文字起こし結果をそのまま公開せず、元の音声と照らし合わせます。

分析では、事実と仮説を別の欄にする。

事実

集計期間・対象本数・観測した数値

仮説

数値が変化した理由の候補

未確認

他の要因や不足しているデータ

次の検証

変える要素と判断する時期

AIの説明だけで原因を断定せず、元データと集計方法を確認します。

公開前のチェックは、工程に組み込む。

事実

原資料と一致しているか

表現

誇張や誤解につながらないか

権利

素材や生成物の利用条件を確認したか

個人情報

公開してよい内容と範囲か

承認

誰が対象版を確認したか

判断が難しいものは**公開を保留**し、社内の担当者や専門家へ確認します。

指示文と修正理由を、次の制作へ残す。

記録するもの

利用したサービスと日付

入力した材料の種類

指示文と採用した出力

人が修正した点と理由

最終確認した版

記録自体にも機密情報を増やさず、社内の保存ルールに合わせます。

時短効果は、**確認の時間まで含めて測る。**

比較する時間

材料を整える時間

AIで下書きを作る時間

事実確認と修正の時間

承認までの時間

下書きだけが速くても、修正が増える場合があります。

品質と総作業時間を一緒に振り返りましょう。

公開済みの情報で、小さく試す。

モデルケース

公開済みの商品説明から企画案を作る

担当者が事実を確認し、一本を選ぶ

台本の下書きを修正する

通常の承認手順を通して公開する

効果保証ではなく、導入の進め方の例です。

90日で、自社の使い方を整える。

0~30日 | 利用範囲と確認者を決め、練習素材で試す

31~60日 | 実制作の一工程で使い、修正と作業時間を記録

61~90日 | 有効な指示文とチェック項目を共有

期間は目安です。誤りや想定外の入力が起きたときの連絡先も決めましょう。

AIの助けを、安心して繰り返せる手順にする。

今日決める5つ

利用を認めるサービス

入力してよい情報の範囲

最初に使う制作工程

人が確認する項目と担当

記録と振り返りの方法

ショート動画屋さんの内製化支援では、貴社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する